

進路指導部だより

2023年4月号

【1】 44期生の進路状況

44期生				経年変化			
	男子	女子	計	42期	43期	44期	45期 (希望)
四年制大学	27	11	38	20人	24人	38人	31人
総合型選抜	6	2	8	9.9%	12.8%	21.3%	22.8%
指定校推薦	16	7	23				
公募制推薦ほか	4	2	6				
一般選抜	1	0	1				
短期大学	2	10	12	10人	11人	12人	10人
総合型選抜	0	2	2	4.9%	5.9%	6.7%	7.4%
指定校推薦	1	6	7				
公募制推薦ほか	1	0	1				
一般選抜	0	2	2				
専門学校ほか	26	36	62	83人	64人	62人	50人
AO入試	19	29	48	40.9%	34.2%	34.8%	36.8%
指定校推薦	5	3	8				
公募制推薦ほか	1	4	5				
一般入試	1	0	1				
就職	24	28	52	49人	60人	52人	45人
学校紹介	21	23	44	24.1%	32.1%	29.2%	33.1%
公務員	2	0	2				
自己開拓・縁故・家業・一般	1	5	6				
その他	3	11	14	41人	28人	14人	/
浪人	0	1	1	20.2%	15.0%	7.9%	
就職活動継続（ハローワーク）	0	1	1				
フリーター（アルバイト）	3	8	11				
その他（家事手伝い等）	0	1	1				
合計	82	96	178	203人	187人	178人	136人

進学決定率	98.2%	決定者112÷希望者114
学校紹介就職内定率	100%	内定者44÷希望者44
進路未決定率	7.9%	その他14÷全体178
フリーター希望率	6.2%	フリーター11 ÷全体178

45期生学校紹介希望者38名

【2】進路指導の方針

◇2023年度の方針

- 1 進路選択に向けて、1年次から計画的に進路学習を実施する。
- 2 就職指導は主に進路指導部就職係による一斉指導を中心にを行い、進学指導は主に3年担任による個別指導を中心に行う。
- 3 進路指導部と担任団との連携をはかることで、就職指導と進学指導をより充実したものに、生徒一人ひとりの進路の実現を図る。

◇進学指導の方針

- 《傾向》
- 1 専門学校はAO入試で受験する生徒が多い
 - 2 大学・短大は指定校推薦で受験する生徒が多い。
 - 3 指導期間が長期化（総合型選抜（AO入試）・学校推薦型選抜・一般選抜）。
- 《対策》
- 1 2年3学期からガイダンスを開始。
 - 2 1、2年から学校調べをおこなうように指導。
特に、新3年生の進学希望者には、オープンキャンパスへの参加、もしくはインターネット等での学校調べを春休みの進路課題とした。
 - 3 3年の個別相談会と総合型選抜（AO入試）対策講座をエントリーまでに実施。
 - 4 早めに志望校（少なくとも志望学部学科）を決定させる。
・受験の機会を多くすることが可能になる。
 - 5 総合型選抜（AO入試）や指定校推薦等に向けた面接指導の実施。
 - 6 各学年と連携し、1年次から進学希望者に模擬試験を受験させる。

◇就職指導の方針

- 《傾向》
- 1 就職希望の生徒が多い状況が続いている。
 - 2 企業の求める人材の多様化（学力、元気さ、コミュニケーション力等）。
 - 3 生徒が希望する求職条件が限定的（自宅から近い・給料が高い・休みが多い）。
- 《対策》
- 1 学年団の協力等を得て、学習会や面接指導の充実化を図る。
 - 2 企業とのミスマッチをなくす（応募前職場見学の充実）。
 - 3 面談などで生徒の希望をくみ取り、求人を紹介する。

◇進路未決定者を減らす取組み

- 1 進路のしおり（保護者版）を懇談の際に配付し、1年次から、家庭でも進路について考えてもらうよう促す。
- 2 3年生の4月と5月の説明会において、進路希望未定者や自己で就職先を探すことを希望する生徒を対象とした講座を設けて、進路決定への意識を高めさせる。
- 3 外部機関（ハローワーク、就業支援センターなど）と連携し、自己で就職先を探す生徒や就労支援の生徒への指導を充実させる。